

育



と答えた。相手のエース・小島和哉の低めの直球を左

その時

乱打戦

50打走は7秒0。チーム一の「鈍足」が、大きな体を揺らして懸命に走った。三塁ランナーコーチの槍森賢太郎は腹を決めていた。「外野は深い。間を抜けたら全部回す」。徐々に間の熱戦に幕が下りた。今春の選抜大会の覇者に一歩も引かず、劇的な勝利勢いに乗るナインが目指すのはただ一つ。東北勢初の夏の優勝のみだ。

(仲條賢太)

歩み

8月

丸森町

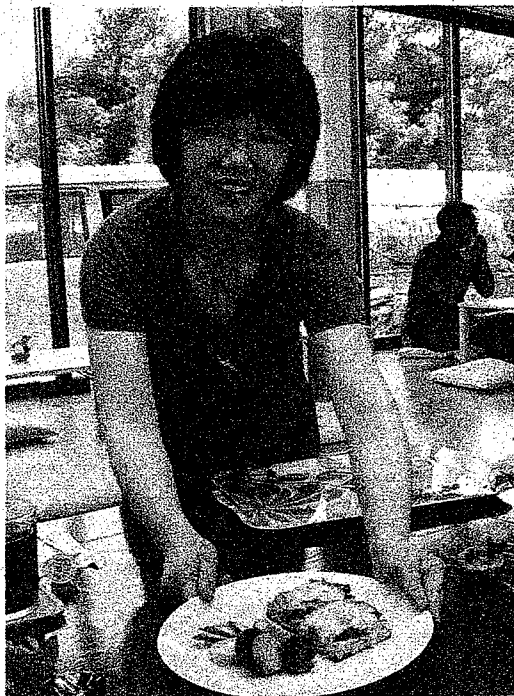
大張を元気にカフェ挑戦

人口9000人余りの丸森町大張地区に7月28日、カフェ「つぎつぎ」がオープンした。「看板がないから、道に迷ったよ」とぼやく大河原から来たという男性客に、経営者の佐藤真紀さん(49)は「ごめんさい。まだ、そこまで手が回りなくて」と応じた。

板の間の店内は約30平方メートル。大きなガラス窓の向こうには、山の濃い緑が広がり、重たげに頭を垂れるヒマワリが揺れる。「いらっしやいませって、お辞儀してくれてるの」といたずらっぽくほく笑った。

1年前まで専業主婦だった

メニューにこだわったカフェをオープンした佐藤さん。大張を元気にしたいと張り切っている(6日、丸森町大張で)



た。夫・勤一郎さん(52)が定年退職したら、夫の実家の大張で喫茶店でもやりたい。そう思い立ち、子育てが一段落したのを契機に勉強でもして

おごつかと、昨年7月、仙台のビジネススクールに軽い気持ちで通い始めた。真紀さんが提案した事業計画は、放射能汚染の風評被害

を打破し、大張を元気にするカフェの経営だった。高い評価を受け、話はトントン拍子に進んだ。築30年の実家を改装し、開店にこぎ着けた。勤一郎さんは「どうしてもやりたいというし、実家に来てくれるのだから、反対する理由がないですよ」と応援する。カフェで出したいケーキがあった。約40年前、英語教室でアメリカ人の女性宣教師が手作りしてくれたチョコレートケーキ。開店が決まってからアメリカに手紙を書き、レシピを覚えてもらった。地元産・六穀米にこだわったシフォンケーキも作る。コーヒー

豆は仙台の専門店から仕入れ、1杯のコーヒーに通常2杯分の豆を使う。町中心部で花屋を営む古川和也さん(34)は「こういうお店がなかったから」と歓迎する。だが、開業10日目の6日、客は3人だった。「山の中でカフェなんて採算だけを考えれば無謀な計画。でも、自分ができることで何かをしたかった」と真紀さん。定休日の木、金曜日だけ仙台の自宅に帰る二重生活を頑張るつもりだ。夢と願いの詰まったカフェの挑戦は、スタートしたばかりだ。

(豊洲伸志)

盛夏を迎えた県内6か所から今月も近況を報告します。

宮城

東北総局
〒980-0021
山形市青葉区中央
2-3-6
売売仙台ビル内
電話 022-222-4121
Fax 222-8386
メールはtohoku@
7omiuri.comへ

石巻支局
〒986-0821
石巻市住吉町2-6-23
アソシエ21 102号
電話 0225-96-9601
Fax 96-9602

大崎支局
〒989-6117
大崎市古川旭6-4-12
オフィス佐藤2-b
電話 0229-22-1077
Fax 22-0049
一通信部一
気仙沼0226-22-6980
石0224-25-2296

購読、配達は
山台小田原262-2305
東仙台251-6025
中央 223-2362
長町 248-1318
東部 351-7727
巻 96-9512
巻 362-8001
賀 361-3833
仙 21-0151
仙 22-0953
仙 22-2532
仙 22-5323
取 382-3068

販売事務は
山台022-262-5807

広告
山台022-266-1562

折込込み広告
山台022-387-3300

旅は読売旅行で
山台022-222-5811

ディベート甲子園



「第1回」
ディベート